



## 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について

1月21日に国立大学法人評価委員会から「国立大学法人等の令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果」が通知されました。

### 全体評価

当該事業年度における各法人の中期計画の進捗状況全体について、総合的に評価された結果は下記の通りです。

- ・ 83 法人（79 国立大学法人・4 大学共同利用機関法人）中 83 法人が、中期目標前文に掲げる「法人の基本的目標」に則して、計画的に取り組んでいると認められる。  
全体として、昨年度に引き続き、ダイバーシティの推進や外部資金獲得の拡大の取組が広まっているとともに、他機関との連携強化、情報発信の強化に関する取組、施設の整備や有効活用に関する取組が多く実施されている。
- ・ 他方で、入試判定における不正行為、附属病院における不正事案等が発生しており、これらの法人については、課題として指摘している。また、学長が職務を遂行できていない状況により、国立大学法人制度の求める運営体制となっていない法人について強い懸念を示している。

### 項目別評価

業務の実績に関する評価の「業務運営の改善及び効率化」等の4項目について、各法人が行った自己点検・評価の結果の検証が行われ、以下のとおり6段階の評定により進捗状況が評価されました。なお、本学は、すべての項目において「順調」と評価されました（\*印）。

評定区分	業務運営の改善・効率化	財務内容の改善	自己点検・評価及び情報提供	その他業務運営
特筆すべき進捗状況	1	0	1	0
順調 一定の注目事項あり	7	5	1	1
順調	74 *	77 *	81 *	81 *
おおむね順調	1	1	0	1
遅れ	0	0	0	0
重大な改善事項	0	0	0	0

評価結果の詳細については、以下の文部科学省のウェブサイトに掲載されています。

### 国立大学法人等の令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/detail/1422680\\_00003.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/detail/1422680_00003.htm)

### 令和2年度の評価結果について（PDFファイル）

[https://www.mext.go.jp/content/20211126-mxt\\_hojinka-000019158\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211126-mxt_hojinka-000019158_1.pdf)

## 本学の結果において「注目される点」と評価された事項

令和2年度の実績のうち、下記の事項について「注目される点」と評価されました。

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### ○ 全学データベースシステムと連動させた新たな教員活動評価制度の構築

全学統一指標に基づく教員活動評価を実施し、高い活動レベルにあると判定した教員に対しては、インセンティブとして6月の賞与に反映したほか、低い活動レベルにあると判定した教員に対しては、その度合いに応じて、所属部局長による指導・助言や、活動改善計画の提出といった措置を行い、大学の教育研究活等の向上を図っている。また、全学データベースシステムでは、外部データベースから自動的に各教員の掲載論文情報等をインポートすることが可能であり、このデータベースと教員活動評価における各教員の活動内容を連動させて分析を進めることにより、各教員の教育研究活動の可視化のみならず、各学部等の部局評価、さらには大学の研究力における強みの可視化等にも活用する予定としている。

### II. 教育研究等の質の向上の状況

#### ○ 航空機産業振興のため共同研究等推進

航空機システム電動化のため秋田県、秋田県立大学及び民間企業との共同研究を推進し、令和2年度は事業全体で秋田県内企業を含む共同研究契約14件（新規10件、継続4件）を締結している。事業を推進するため、大学に秋田県立大学と共同で運営する「電動化システム共同研究センター」を令和3年度から新たに設置し、センター長は航空機システム関係の民間企業の前顧問が就任することとなっている。

#### ○ 高度実践看護師養成のため教育課程充

がんと共に生きる人々とケア提供者の課題解決とケアの質向上ため、実践、相談、調整、倫理調整、教育、及び研究の6つ役割を担う、高度な判断力と看護実践能力をもつ専門職を養成することを目的とした教育課程である「がん看護専門看護師（CNS）コース（26単位教育課程）」について、令和2年度から38単位教育課程に移行し受入を開始している。また、現場における医療・介護・福祉の提供者の視点から患者・家族への安心かつ安全に援助を提供するシステムの要となりうる医療者の育成を目的として、「診療看護師（NP）コース」を新設している。

#### ○ 自殺予防総合研究センターの設置

自殺予防プロジェクトチームによる「SNSを活用した高齢者支援事業」では、学生と高齢者がSNSツールを利用して遠隔で定期的に交流を持ち、この交流が高齢者の孤立を防ぎ抑うつ状態の予防・改善に役立つ可能性について調査・検討し、「第13回秋田メンタルヘルスサポーターフォローアップ研修会」において、県内で自殺対策に取り組むボランティア・行政関係者に対して成果の共有・展開を行っている。このように、自治体及び民間団体等と連携して地域における自殺予防対策事業を推進し、地域の自殺予防対策強化に資することを目的とし、大学における自殺予防対策に関する教育研究及び事業推進の実施拠点として、令和3年4月に自殺予防総合研究センターを新たに設置することとしている。

#### ○ 大学院先進ヘルスケア工学院の設置

超高齢社会における認知症への対策や、生活習慣病を改善する健康維持・向上ためのヘルスケア機器、高齢者の日常生活をサポートする運動支援機器等の研究開発を行いながら、このような社会で活躍できる人材を育成するため、医学系研究科と理工学研究科の間となる「医理工連携コース（教育プログラム）」を「先進ヘルスケア工学院（大学院修士課程）」として設置し、令和3年度から運用することとしている。

## 附属病院関係

### (教育・研究面)

#### ○ 女性医師・女子学生に対するキャリア支援、職場復帰

女性医師や女子学生へのキャリア支援や職場復帰支援のため、オンラインによるキャリアミーティングを開催するなどキャリアパス設計支援や各種制度の周知を実施することにより令和2年度の女性医師育休取得率は87.5%、復帰率は100%となるなど、女性医師・女子学生に対するキャリア支援等に取り組んでいる。

### (診療面)

#### ○ PCRラボの設置

新型コロナウイルス感染症検査件数の増加を目的として、感染性物質を扱う安全キャビネットや検査機器等を新たに整備するとともに、医学系研究科の講座等に勤務する医師、技術職員等が中央検査部の検査業務に協力することより、中央検査部の機能を大幅に強化し、院外の検査も受け入れ可能な「PCRラボ」を令和2年6月に新たに設置するなど、新型コロナウイルス感染症対応に取り組んでいる。

### (運営面)

#### ○ コロナ禍での地震発生を想定した避難訓練実施

基幹災害拠点病院に指定されていることも踏まえ、訓練の詳細を事前に伝えないブラインド型の災害訓練を平成25年から継続して実施しており、令和2年度の新たな取組として、新型コロナウイルス感染症の感染防止を行いながら、大型地震による負傷者を受け入れる訓練を令和2年10月19日に初めて実施している。

\* 本学の「点検・評価活動」に関する評価結果等は、以下のホームページに掲載しております。  
[https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in\\_check.html](https://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_check.html)

広報へのご意見などは評価・IRセンターへ

TEL: 018-889-2206 (総務企画課評価・IR室) / FAX: 018-889-2939 / E-mail: [sokikaku@jimu.akita-u.ac.jp](mailto:sokikaku@jimu.akita-u.ac.jp)